

主月税連

2019年秋季シンポジウムin埼玉

〜新時代に対応した税理士と税理士制度とは〜

173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187

Feb.15.2020 No. **184**

全国青年税理士連盟

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-8 代々木第10下田ビル7F
Tel 03(3354)4162 Fax 03(3354)4095

Content

2019年秋季シンポジウムin埼玉

新時代に対応した税理士と税理士制度とは	—————	P.3~11
実行委員長総括報告	—————	大竹光男— 3
秋季シンポジウム参加御礼	—————	神田康志— 4

秋季シンポジウムに参加して

●東京	—————	阿部圭子— 5
●千葉	—————	岩澤英彦— 6
●神奈川	—————	松浦美穂— 7
●名古屋	—————	大澤輝高— 8
●岐阜	—————	成松祐輔— 9
●近畿	—————	志村真二—10

韓国税務士考試会

 ————— P.12~13

韓国税務士考試会定期總會参加報告	—————	高井正樹—12
------------------	-------	---------

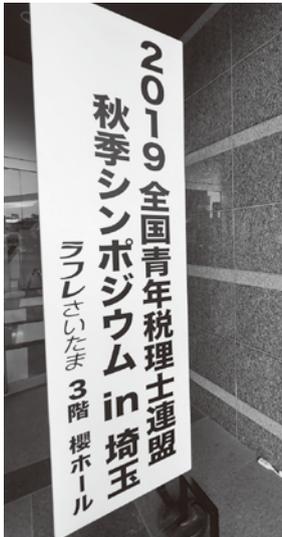
岐阜大会参加のお願い

 ————— P.14

2019年秋季シンポジウム in 埼玉

テーマ

新時代に対応した税理士と 税理士制度とは



実行委員長総括報告

2019年 秋季シンポジウムを終えて

秋季シンポジウム実行委員長 大竹光男

2019年の秋季シンポジウム実行委員長を務めました埼玉青税の大竹光男です。

「平成」が終わり「令和」となり、令和初の秋季シンポジウムは、11月17日（日曜日）さいたま市の「ラフレさいたま」で行われました。全国青税の秋季シンポジウムが、ここ埼玉で開催されるのは、2010年以來9年ぶりです。

当日は日曜日にも拘らず、全国の多くの青税会員に参加して頂き、誠に感謝申し上げます。お陰様で、各単位青税の個性豊かな発表も、大きなトラブルも

なく、無事終了することが出来ました。

思い起こせば、前田前会長の下、2018年の夏に研究部長に就任してから会場選定やテーマ選定に苦労しながら1年が過ぎ、2019年の夏に就任した三谷会長の下、秋季シンポジウムの実行委員長として開催運営に携わることになりました。

秋季シンポジウムに携わるということは、全国青税の役割として1年半近く携わることになります。この全国青税の二大事業のひとつである秋季シンポジウムを無事成功させることが出

来たのは、発表としての全国の青税会員及び運営側の埼玉青税の会員の皆様のご協力のおかげであることを改めて感じている次第です。

さて、今年のテーマは、「新時代に対応した税理士と税理士制度とは」とさせて頂きました。日頃あまり気にすることがない「税理士制度」ですが、私たち税理士の基本は「税理士法」です。日税連でも「次期税理士法改正に関する答申」として意見募集を行っていますが、改めて「税理士法」を考える時が来ているのではないかと思います。全

国青税でも「税理士法」をテーマにするのは2008年以來です。

各単位青税においても「新時代に対応した税理士と税理士制度」に即した小テーマを考えて頂き、東京青税は「憲法」・千葉青税は「歴史」・神奈川青税は「権利」・名古屋青税は「情報化社会」・岐阜青税は「試験制度」・近畿青税は「事務所の在り方」とそれぞれの面から研究して頂きました。そして、その研究成果を個性豊かに発表して頂いたと感じております。

税理士試験にはない「税理士法」ですが、税理士法第1条の「税理士は、税務に関する専門家として、独立した公正な立場において、申告納税制度の理念にそって、納税義務者の信頼にこたえ、租税に関する法令に規



定された納税義務の適正な実現を図ることを使命とする。」を、今一度再考する良い機会であったと感じています。

来年の名古屋での秋季シンポジウムにおいても、全国の単位青税の個性豊かな発表を見ることが出来ることを楽しみにしています。

最後に、会員数が少ない単位青税の埼玉が秋季シンポジウムを成功できたのは、埼玉青税の会員の団結力だけでなく、全国青税の会員のご協力があったることと感じております。ありがとうございました。

秋季シンポジウム参加御礼

埼玉青年税理士連盟代表幹事 神田 康志

11月17日に無事にさいたま新都心のラフレさいたまにて秋季シンポジウムを行う事が出来ました。

まず、今回のシンポジウムの為に発表と論文の準備をしていただきました、各単位青税の皆さまありがとうございます。そ

して、当日に全国から集まって頂きました皆様もありがとうございます。

これまで念入りに準備を行って頂きました、大竹シンポジウム実行委員長と田村シンポジウム実行副委員長を始めとした埼玉青税の各会員は本当にお疲れ様です。

私も当日、裏方で準備をしまして気づいたら忙しいまま一日が終わってしまいました。

秋季シンポジウムを成功できましたのは皆様のおかげです。本当にご協力をありがとうございました。



ラフレさいたま

各単位青税報告 (秋季シンポジウムに参加して)



東京青税

阿部 圭子

1. テーマについて

今年の大テーマは「新時代に対応した税理士と税理士制度とは」です。東京青税は小テーマを「憲法と税理士」としました。

論文の「はじめに」にもありますが、私たちは税理士制度のどこをどう変えるのか、という以前に、税理士はどういう存在であるべきなのか、から考えることにしました。そこからどういう税理士制度を有するべきなのか、を探れるのではないかと。幸い論文の掲載順も発表の順番も東京青税が最初ということなので、今回の秋季シンポジウムのオープニングにも相応しいのではないかと思います。

また、東京青税研究部では憲法学者で税法学者の北野弘久教授の著書「税法学原論」を勉強する研究会を2年で1クールとして開いており、今年度は15クール目になります。30年近くに亘る勉強会に多少なりとも関わった身としては、憲法を軸とした税理士像を示したい、研究したいという気持ちがありました。

2. 論文について

テーマ「憲法と税理士」は、耳なじみは良いのですが、内容が分かるようで分かりません。まずは憲法の考え方から勉強を始めることにしました。どこから手を付けてよいかも分からないので、東京青税の研究部と制度部に協力してもらい、小池幸造先生に質問者になっていただくパネルディスカッション、奥

谷健先生の「憲法と税理士」勉強会、阿部徳幸先生の「本当は身近な憲法と税理士制度」研修会を開催しました。

8月半ばに章立て・項立てを起こし、メンバーに割り当て、まず骨子作成です。週1回のペースで委員会を開催したのですが、骨子の段階で執筆者の疑問を議論して解決していきます。その時に結論が出なければ、参考になるような研究論文や書籍を探して示すなどしてメンバー間で情報共有し、知識を深めていきました。

次は論文執筆になりますが、これも毎回執筆者が自己の論文を報告し、メンバーからの質問に対して、自ら説明することで、問題を明確にし、より分かりやすい表現を用いるようにしました。参考資料の引用についてミスリードがないか検討しました。書き直しのない回などありません。

一つの論文を12名で仕上げていく作業では、執筆者へのリスペクトと素直な目線の2つが柱になりました。常に、この2つを持って論文執筆と研究に臨

んでくださった論文メンバーに、心から感謝します。

3. 発表について

論文を提出すると、今度は発表の準備です。発表形式に縛りはありませんでしたが、楽しさと伝えやすさから寸劇形式を選択しました。加納豊彦会員がキャラクターのアイデア、倉林倭男会員が北野先生の白熱教室のアイデア、それを武田佳奈子会員が楽しいシナリオに仕上げてくださいました。パワポは齊藤和弘会員が初挑戦と言いながら、笑いと分かりやすさを両立させた画面を根気よく作ってくれました。

配役については、多少の強引さはありましたが、メンバー全員おおむね快諾のうえ、役柄を深く理解し、気の利いた衣装・小道具も準備して、発表当日はアドリブも盛んに飛び交い、寸劇を盛り上げてくれました。中身の濃い愉快的な5か月間の旅が終わりました。

埼玉青税の皆さん、素晴らしいシンポジウム運営をしてくださって、本当にありがとうございました。



千葉青税

岩澤英彦

皆様こんにちは、千葉青税の岩澤です。千葉青税で2年目ですが、全国青税の活動の一環であるシンポジウムに参加させて頂きました。今年のシンポジウムのテーマは、「新時代に対応した税理士と税理士制度とは」で、千葉青税では「税理士制度の歴史」でした。

最初に私が参加した経緯をご説明します。千葉青税の前会長の亀川さんから今年の6月頃に打診があり、自分も軽い気持ちで承諾しました。今、思うとそれからが大変だったように思います。このシンポジウムは、論文を作成し、その後、皆さんの前で、発表するという事でした。

まず論文作成では、渡邊さんが主体的になって作成に尽力され大変助かりました。私も参考文献である資料（書籍・雑誌）集めから、構成や誤字脱字の修正作業をしました。また、税理士制度の歴史に厚みを持たすため、諸外国の制度の歴史を亀川さんが担当され、非常に内容的におもしろい論文に仕上がったのではないかと考えております。そして、織本先生にもいろいろと参考文献などの資料をご提供して頂き感謝申し上げます。

いよいよシンポジウムの発表をどうするかという事で、10月に一度、皆さんでお会いした時に、ほとんど出来上がっていない状況に自分もびっくりして

おりました。この時に合間さんに急遽、発表者になって頂きました。この日は、発表の形式の大枠（発表の流れ）がまとまりました。そして、いよいよシンポジウムの一週間前の日曜日を迎えました。ここで発表の骨格が決まり、パワポも渡邊さん、亀川さんで作業をして頂きました。発表の内容に関して、石井さんや尾畑会長、そして簾内さん、松田さんなどからいろいろな意見が出て、非常に有意義な一日でした。また、その後の一週間の中で、皆さんで台本などを修正し、当日を迎えました。当日の発表の楽屋でも皆さんで発表の内容の訂正をし、本番ギリギリまで、作業を続けて参りました。いざ、本番を迎え終わった時の感想は、意外とうまくいったのではないかという風に感じました。これも渡邊さん

をはじめ亀川さん、合間さんそして風邪にも関わらずご参加して頂いた簾内さんの力で「One Team」となれたのではないかと思います。裏方で国分さんにも支えて頂きました。

その後、他の単位青税の発表も拝聴しました。寸劇の出来栄えのすごさに度肝を抜かされました。また、難しい問題をいかにお笑いで分かってもらおうという他の単位青税の姿勢にいろいろと勉強をさせて頂きました。

最後にさいたま青税の方々には、本当に感謝を申し上げます。会場の手配から当日の構成・案内、大変だったと思います。大変有意義な一日を過ごす事ができ、お礼を申し上げます。ありがとうございました。



◎ 神奈川青税

松浦美穂

シンポジウム委員長の打診を断り続けていたにも関わらず、長谷川代表のしつこい、いや粘り強い説得に負け、「これくらい粘り強く口説き落とす力を女性に向ければすぐに結婚できるのでは」と思いつつ、引き受けてしまった委員長。しかし、その後の道のりは、嵐の航海で、後悔の嵐でした。

「制度の神奈川」とよばれていた諸先輩方を前に、今年のテーマ「税理士制度」についてどのような個別テーマを設定するか、どのように検討を進めていくかを考える時点ですでに大きな壁が。個別テーマの検討で私の頭に浮かんだのは・・・白紙。まったく何も浮かばないのです。よくよく考えてみたら、いや、よくよく考えなくても今まで「税理士制度」について勉強を重ねてきたわけではなく、意見を言えるほどの知識を持ち合わせていないのです。

大テーマが決定してから勉強を始めましたが、一朝一夕で理解できるようなものでもなく、大変な苦戦を強いられました。私の知識不足は明白なので、制度の神奈川を支えられた先輩に助けを求め、論文検討に入りました。検討会では、構成も定まらず、構成を決めても、結論が決まらず・・・夜中12時を超えて検討を続けることも。神奈川青税のいいところは、自分の意見を主張できること。他の人に反対意見をだされても主張できること。せっかく論文にするなら、それぞれの主張を組み込みたい。そして何とか仕上がった論文。難しいテ

マにかかわらず、新メンバー3名が参加してくれたことには大いに感謝です。

一山こえたら、また一山。発表準備に入っても難航は続きません。論文作成メンバーと発表メンバーが入れ替わるのが神奈川の不思議。当日参加できないなどの理由で、論文完成と同時に卒業していくメンバー。反対に、新たに参加を希望してくれるメンバーも。

神奈川が誇る天才脚本家をもってしても制度問題の発表は難しい。結論を明確に出すことができないのが制度問題。明確でないからメッセージを組み込むことができないのです。一時は寸劇形式の発表はやめる方向で進んでいました。しかし、他の単位会から「神奈川の発表(劇)を楽しみにしている」と声をかけていただいたことや、神奈川の発表メンバーの口には出さないけど伝わってくる「劇をしたい」という思いから、発表メンバー全員でシナリオを作

成したのが、本番の1週間前。本番までの1週間は毎日集まって発表練習。しかし、本番まで全員が揃う日はないという危機。毎年、発表メンバーが一番イキイキしているのは、衣装を考えているときなのですが、配役の最終決定は、本番の4日前。衣装検討のウキウキタイムは、各自自宅で。発表用のスライドに至っては、完成は本番の1時間前・・・バタバタとはまさしくこのことでしょう。

当日、まさかの「北斗の拳」がかぶって、持っていかれた感があります。個人的には無事(?)本番を迎えられたことが何よりの喜びです。また、こういう機会がないと、ここまで集中して制度について勉強することもなかったのもなかつたので、いい機会になったと思っています。

一緒に作り上げてくれるメンバーに囲まれ、私は幸せでした。普通の女の子に戻ります。ありがとうございました!



名古屋青税

大澤輝高

名古屋青税制度部長の大澤です。

11月17日(日)にラフレさいたまにて開催された全青税秋季シンポジウムに参加しました。今年度の統一テーマは「新時代に対応した税理士と税理士制度とは」ということで、我々名古屋青税制度部はその統一テーマのもと「AIと情報化社会における税理士制度」について半年間研究し、発表しました。

名古屋青税の発表の様子は写真の通りです。発表前に私のインタビューがありました。インタビューの内容は決まっていたのですがすごく緊張しました。

発表の方法は司会者一人を含めた税理士、税務署の調査官、会計ソフト会社の社員2人と一般の納税者の計6名が討論形式で小冊子の内容を話し合い、その後AIの発展した将来の税務調査はこんな感じになるのではないかという想定を基にした内容を寸劇で行いました。

最初の討論形式の発表は1年目の部員さんや初めてシンポの発表に参加した方が中心のせい



か皆さん大変緊張しておりました。討論では小冊子の流れの通りにAIについての説明をし、そのAIを利用して今後どのように税理士の業務が変化していくのかについて私たちなりの考えを発表しました。言いたいことは一通り表現できたと思います。

寸劇は将来の税務調査を題材にして税理士と税務署の調査官がAIを利用して調査を進めていくという内容でした。ベテランの部員の方たちばかりだったせいか観覧した方たちからはすごい安定感だったとの感想を聞きました。準備の段階で様々なアイデアが出ていましたが時間

内にうまくまとめることができましたと思います。

そして最後に名古屋青税制度部一同が登壇し一礼をして発表を終えました。発表後に会場の入り口付近で記念撮影をしました。皆さんとてもいい笑顔でした。

単位青税の発表がすべて終了し、懇親会に参加しました。今回はシンポジウムの順位発表等ではなく、各単位青税のMVPを他の単位青税の代表者が決めるという方式でした。名古屋青税のMVPは田畑制度副部長です。さすがイケメンです。

討論を入れたせいか最初のほうは名古屋らしくないと思われたみたいですが、私としては今回の討論と寸劇の両方で名古屋青税の発表したい内容を表現できたのでよかったのかなと思います。

大変な一日でしたが達成感のある日となりました。また、減多にできない経験をさせて頂くことが出来ました。少しでも興味のある方はぜひ参加してみてください。

参加された皆様お疲れさまでした。ご観覧頂いた皆様ありがとうございました。



岐阜青税

成松 祐輔



今年の秋季シンポジウムのテーマ「新時代に対応した税理士と税理士制度」のもと、岐阜青税では「税理士試験」について発表をいたしました。

11月のシンポジウムに向けて、まずは7月に決起集会が開催され、5名の発表者が共同で論文執筆を担当することとなりました。私は「試験科目の一部の免除等」について担当しましたが、税理士試験についての参考文献や資料が大変少ないため苦労しました。それでもお盆休み返上で執筆活動に取り組み、何とか担当パートを形にすることができました。

日頃、税理士業務を行う上ではあまり深く考えることのない税理士試験についてですが、試験の受験者数が減少する中で、これからの税理士のあるべき姿をイメージしながら、税理士試験に求められる制度設計について、改めて考え直す良い機会となったと思います。5名の共同執筆ということもあり、論文の方向性を取りまとめる過程で、研修部の皆さんにとっては、さぞ苦労が多かったらと思いますが、皆様のご協力により

無事一つの論文に書き上げることができました。

論文執筆が終わると、いよいよ岐阜青税のお家芸である寸劇の練習です。本田会長のインスパイアを受けて石黒研修部長が書き上げたこのシナリオがとにかく秀逸で、某世紀末マンガをモチーフとして、主人公ケンシロウが税理士を志し、悪の権化と闘いながら税理士試験の合格を目指すという抱腹絶倒のストーリー展開。寸劇の練習が始まると、セリフ回しやスライドや衣装など、みんなで知恵や意見を出しながら、全力の稽古が繰り返されました。まるで

学生時代の部活動のようなノリで、毎週の稽古が楽しみな時間となりました。

そして発表当日、まさかのハプニングが。神奈川青税とモチーフがモロにかぶるという事態が判明。しかも発表順は岐阜青税が後ろという状況に、却って発表者全員の魂に火がつけました。発表直前の決起集会では、主人公の太眉メイクもばっちり決まり、参加者全員が一致団結した良い雰囲気の中で、いよいよ本番です。

「ひゃっは一、水がうめえ」のセリフを口火に、時にはアドリブを交えつつ、時にはセリフを飛ばしつつも、全員で楽しく演じ切りました。クライマックスのシーンでは、本田会長演じる老人が、主人公を叩きのめすという意外な展開に、会場が大いに沸きました。岐阜青税の発表での会場の盛り上がりは、他に決して負けてはなかったのではないのでしょうか。

発表後は多くの方から高い評価をいただき、たいへんうれしかったのですが、何よりも自分



が一番楽しむことができた発表となりました。発表後の懇親会では、やり切った充実感の余韻に浸りながら流し込むビールが美味しかったことは言うまでも

ありません。私自身、シンポジウムでの発表は初めてでしたが、仲間たちとこのような経験ができたことはとてもよい思い出となりました。

最後となりますが、主催の埼玉青税の皆さま、全国青税の役員の皆さま、ご参加の全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

近畿青税

志村真二

令和元年11月17日午後3時、ラフレ埼玉において近畿青税のディベート形式のシンポジウムが始まった。

思い返せば確定申告真ただ中の2月中旬、辻田次期代表幹事予定者(当時)から1本の電話が入った。電話の内容はこうである。次期シンポジウム委員長を引き受けて欲しいとのこと。彼とは一度しか面識がなく、正直言って誰かに嵌められたと感じた。しかも、私は、2年前に一度シンポジウムの寸劇に操られ人形として参加した程度で、こういった類の青税活動とは全くと言っていいほど縁遠い環境にいた。断るのは簡単だと思いつつも、彼の熱意に負け、シンポジウム委員長を引き受けることになった。その後、総会を経て無事シンポジウム委員長に選任され、議論の末、今回の近



畿青税のテーマは「事務所設置と税理士法人」と決まった。テーマの幅が広く、論点が多岐にわたるため、論点の絞り込み作業に大変苦勞した。特に、論文に関しては毎度のことながら6支部が共同で執筆作業を行うため、物理的にも精神的にも距離があり、第1稿については、見るも無残なまとまりのない不細工な仕上がりと化した。幾度となく議論と校正を繰り返す、なんとか脱稿に辿り着いた時の安堵感は今でも鮮明に覚えている。

安堵したのも束の間、シンポジウムの発表形式と発表内容の検討に入った。論文の中から、税理士法人の無限連帯責任を題材にして、ディベート形式で発表を行うことに決まった。

本番当日、最終打ち合わせもほどほどに近畿青税の出番が迫ってきた。私はディベートのコーディネーターを務めることになっている。他6名の仲間といざ壇上へ。持ち時間は25分、会場から向けられる鋭い眼光と、時折交わる笑い声、あっという間の25分、最後のコリーチマイケルの登場によりボルテージは最高潮。そう、我々は「ONE TEAM」なのである。これこそが近畿青税が伝えたかったことなのである。ステージの幕はおり、私の短い戦いも静かに幕を下ろした。

最後に、シンポジウムに携わって頂いた多くの皆様に感謝と御礼を申し上げて、結びとさせていただきます。本当にありがとうございました。



懇親会スケッチ



会場



会長挨拶



前日準備



アトラクション



埼玉青税代表幹事あいさつ



埼玉青税運営メンバー

韓国税務士考試会定期總會参加報告

厚生部長 高井正樹

2019年11月15日(金)、第49回韓国税務士考試会定期總會に三谷会長、安田総務部長、2020年全国大会の塚下実行委員長と厚生部長の高井の4名で出席してきました。

11月14日(木)から11月16日(土)の日程で訪韓しましたので、その報告をさせていただきます。11月14日(木)、近畿青税の三谷会長と安田総務部長は大阪から、岐阜青税の塚下実行委員長と厚生部長の私は岐阜から中部国際空港へ少し早めに向かい、韓国文化の予習、これからの全国青税の在り方などを語り合いながら出発時間まで過ごしました。

空港に到着して国際副会長のキム・ヒョンジュンさん、国際理事のチョ・ドッキさんに温かく出迎えていただいたときは、出会えたことの安堵感があったことを覚えています。

空港を出発したあとかなりの交通渋滞があり、予定より時間がかかりましたが、夜の釜山の町を眺めながら、車内での交流も盛り上がりました。宿泊する

ホテルにチェックインした後、食事をいただきました。今回は釜山開催ということもあり、釜山考試会の役員のみならずも一緒に交流をすることができました。おいしい海鮮料理と同時にいただくお酒もやはり格別であったことは言うまでもありません。

11月15日(金)、朝早く目覚めましたので、ホテルから眺める釜山の朝を感じているとどうしても外に出たくなり、海岸を散歩してきました。

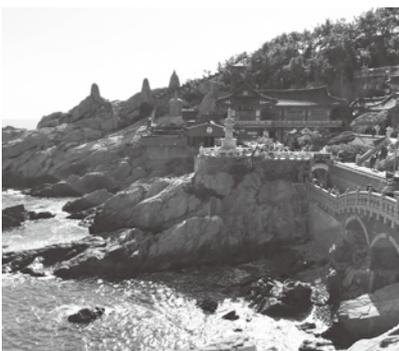
午前中にはヨンゲンサという海岸沿いの絶壁に建っている寺院を見学、その神秘的な風景に言葉がなかったです。その後はブルコギをいただき、テーブルに置けないくらいの種類の料理を堪能しました。食事のあとはヨットでの観光です。日々の邪念を取り払われるかのように、何も考えずに過ごしたあの時間は贅沢でした。

ヨット観光が終わり、定期總會の会場であるパラダイスホテル釜山に向かいました。名刺交換後、定期總會は定刻18時か



ら始まり、スクリーンには1年間の活動報告がなされました。クァク会長の挨拶から始まり来賓の方々の挨拶、三谷会長の挨拶、1年間の活動の中でご活躍された会員の表彰式が行われ、議事進行については、すべての議案が滞りなく可決されました。

定期總會終了後は晩餐会が開催されました。韓国税務士考試会と全青税とのプレゼント交換、各種レクリエーションなどに参加させていただきました。そして場所を移して二次会に参加し、多くの会員と交流を深めることができました。遅くまで



交流が続き、日が変わるまで楽しませていただきました。言葉の壁については不安もありましたが、スマホアプリの翻訳機を織り交ぜることで何とかなっただと思っております。

11月16日（土）、前日考

会の方々には私たちがホテルに戻った後朝方まで交流会があったにも関わらず、朝からお見送りまでしていただき、14時頃無事帰国いたしました。

2泊3日にわたり、韓国税務士考試会の皆様には大変良くし

ていただきました。みなさまにお会いする次の機会は岐阜で開催する全国大会です。今回の御恩を忘れることなく、笑顔で迎えることができるように準備していきたいと思ひます。



岐阜大会参加のお願い

全国大会実行委員長 塚下 順司

全国大会実行委員長の岐阜青税・塚下順司です。

千葉の全国大会でスタートした三谷執行部は、もうすでに折り返し地点ですが、そのゴールである岐阜大会に向けて、岐阜青税のメンバーを中心に全国大会の準備を進めております。

現在の全国青税があるのも過去からの歴史の上に成り立っています。これまでの活動をしっかりと認識しつつ、未来の全国青税が益々盛り上がっていくためにも全国大会は大切であり重要な行事です。全国大会の在り

方については、現在もいろいろな議論がされていますが、なるべく多くの方に参加していただき、岐阜大会に参加してよかったとだけ思ってもらえる全国大会にしていきます。

令和2年の全国大会が行われる8月は東京オリンピックが行われます。したがって、交通の混雑を避けるため、第53回全国大会は8月23日（日）に都ホテル岐阜長良川にて開催いたします。例年に比べて、三谷執行部のゴールはいつもより長くなりましたが、東京オリンピッ

クに負けないぐらいの三谷執行部の有終の美を飾る場、次年度の執行部の佳きスタートとなる場を実行委員会にて準備します。

この記事をお読みにになりましたら、まずもって手帳、カレンダーに令和2年8月23日（日）は「全青岐阜大会参加」と記入をお願いします。また、皆様の単位青税の新入会員や最近全国大会に参加されていない会員などをお誘いいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

みなさまのお越しをお待ちしております。



あとがき

毎年のことながら、税理士にとっての年末年始は忙しいですね。毎年のように年末調整が片付かず、毎年のようにインフルエンザが猛威を振るい、12月決算法人の申告と確定申告の長いトンネルを過ぎると季節はもう春です。そんな多忙の中、予定どおり原稿を頂くことができ、無事発刊することができました。原稿執筆の皆様、また編集に携わる広報部の皆様に改めて御礼申し上げます。もうずっと前のように感じる秋のシンポジウムでの想いを蘇らせ、次の岐阜大会へ向けて、春からの活動を進めていきましょう。

広報部長 山本 祥嗣